

# 美術科授業案

日 時 平成30年6月29日（金）

2校時 1年A組

4校時 1年B組

5校時 1年C組

授業者 更科結希

授業場 美術室

## 1 題材名 自分の宝場所 [A表現(1)ア(2)ア]

## 2 題材の目標

身近な風景の中から、自分の宝にしたい場所を選択し、その場から受ける感じや印象をもとに主題を生み出させる。その主題を表現す意図と工夫について考えながら、創造的に表すことができるようにさせる。また、仲間の作品のよさについて、造形的な視点や特徴の表し方に着目して鑑賞することができるようにする。

## 3 題材について

### (1) 題材観

美術科において、感性や想像力などを豊かに働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞するなどの資質・能力を相互に関連させながら育成することや生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深めることに更なる充実が求められている。

学習指導要領におけるA表現のねらいとしては、自然や生活の中にある身近な対象や事象から、特徴や印象、美しさなど感じ取ったことや考えたことなどを基に発想や構想することをねらいとしている。また、表現においては対象や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと、感情などの心の世界を基に主題を生み出し、全体や部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることとしている。こうした理解を、生徒の感性や想像力に実感的に働きかけるため描くことを通して捉えさせたい。

本題材は、前題材の多くの画家が残した「風景画」の鑑賞から、その風景画はなぜ描かれたのかといった問いについて実感的な理解を深めるため、自分の宝にしたい学校周辺の風景を見つけ、描いていく。中学1年生の段階で、学校の周辺の景色から描く主題を生み出す際に、3年間の生活を送るうえで、最も大切にしたい場所を見付けるといった課題を設けることによって、何気ない場所から受ける印象やイメージを抱き、描きたい場所の選定ができる考える。

### (2) 目指す児童・生徒像

図画工作・美術科が目指す生徒像は「表したい想いの実現に向け、試行や再考を繰り返し、創造活動の価値を見いだすことができる」姿である。本題材においては、対象や事象を捉える造形的な視点について粘土や絵の具を用いて表すことを通じて実感的な理解につなげたい。また、感性や想像力を働かせて造形的なよさや美しさにきづき、表したい特徴を主題として表現の工夫を行い、創造的な表現につなげていこうとする姿を目指している。

### (3) 指導観

本題材は、生徒が選んだ風景を対象として観察していく中で、造形的な視点で対象を捉え、受けた印象やイメージを最大限表すために、素材や道具を工夫しながら表現していきけるよう指導していく。

#### 本題材における「見方・考え方」と「対話的な学び」との関係性

美術科における見方・考え方は、感性や想像力を働かせて、形や色彩などの造形的な視点で、対象やイメージを捉えるなどして、自己や他者との関わりや、生活、社会、文化などとの多様な関係の中で、心豊かに生きることと美術との関わりについて自分としての意味や価値をつくりだすことである。

本題材においては、場所から受ける印象と自己の心情を十分に関わらせる段階を持たせ、表したい主題を創出させていくことが大切である。そのため、これから3年間の「自分の宝場所」を探す活動を導入時に位置づけ、校舎周辺の景色に表したいイメージや印象を具体化していく過程が必要であると考えた。光や影、遠近で対象を捉えることで、自己のイメージや印象を表す事につながるといった見方・考え方を高めていきたい。こうした見方・考え方は、生徒個人が周囲の景色の中から観察し表現していくだけでは気付かないことも、他者との対話の中で、他者の見方に触れることによって高められるだろうと考える。

## 4 評価規準

関心・意欲・態度	発想・構想	創造的な技能	鑑賞
ア対象を見つめ、感じ取った風景の特徴や美しさなどを表現することに関心を持ち、主体的に主題を生み出しながら、形や色彩で表すために材料や用具の特性を生かして工夫して表現しようとしている。	ア主題を基に、全体や部分との関係を考え、形や色彩にこだわりを持ち、創造的な構成を工夫しながら、表現する構想を練っている	ア表したいイメージを大切にしながら、形や色彩などの表し方を身に付け、表現意図に応じて素材の扱いや道具の扱いを工夫しながら創造的に表現している。	ア 造形的なよさや美しさ、対象のイメージ、主題と表現技能の選択や材料の生かし方などを感じ取り、自分の思いや考えを持ち味わっている。

## 5 題材の指導計画

時	学 習 内 容	評価
1	・描き方の特徴を知り、作者のねらいと描き方のつながりに着目する ・自分の宝場所にしたい場所を見みつけ、その意図についてまとめる。	関ア
2	・描く場面の特徴を 構図のもと、下絵を描いていく①	発ア 鑑ア
3	・下絵を描く②	発ア
4	・下絵を描く③、自分の表したい主題に合う色を選択し全体的に着色する①	創ア 発ア
5	・主題の雰囲気を表すために、場所に応じた色の計画をしながら着色する②	創ア
6	・着色③	創ア
7	・着色④	創ア 鑑ア
8	・着色⑤ ・自分の宝場所をなぜ描いたのかを振り返り、多くの画家が残した風景画の意味について考える。	関ア 鑑ア

6 本時について（2 / 5 時間目）

(1) 本時の目標

景色の中から選んだ場面の観察から、自分の表したいことを風景の部分を取り取って表すことを意識し、見る視点を変えながら道具を適切に扱い創造的に表すことができる。

(3) 本時の展開（○発問、△補助発問、□指示・説明）

学習活動（下位目標）	主な働きかけ	【評価方法】 個に応じた指導
<p>1 自分の場所の特徴について確認することができる。</p> <p>・空が少しだけ見えてきれいなところ ・人工物と自然が両方あるところ ・自分たちが使っている様子がわかる ・窓に映る景色がきれいな場所</p>	<p>○みなさんの宝場所、どんなところですか。</p>	<p>【発言・WS】</p>
<p>皆さんが選んだ宝場所を絵で残しておこう？</p>		
<p>2 一番表したいことがよく表れる画面の構成について考えることができる。</p> <p>【表現に関わること】 ・気に入った場所から、どこを描くか決める ・縦と横のどちらで描くか ・画面の中に、景色をどのように配置したらよいか考えるため</p>	<p>○紙に表すときに、検討できることはなんだろうか。</p> <p>△このスケールは絵を描くときに使う道具ですが、どうして使うのだろうか？</p>	<p>【発言・WS】</p>
<p>3 自分の宝場所を自分の感じた事をもとに構図を決めることができる。</p> <p>【表現に関わること】 ・作者が表したいことが違うため ・きっと空を一番表したかったのではないか ・影の様子を表したかったのではないか</p>	<p>○同じ場所の写真が3枚あるけれど、何が違うのだろうか。 ・アングルの違う写真から、表す人の意図が異なることに気付かせる</p> <p>□では、スケールからのぞいて、一番よい場所を決めて下描きをしてみよう。</p>	<p>【発言・WS】 作品との対話</p>
<p>4 次時への課題となることをワークシートに記入する。</p>	<p>□次の時間は、具体的に描いていきます。どのように表していきたいか考えをまとめておきましょう。</p>	<p>【ワークシート】</p>